

施策 No.	政策名	みんなで築く自治のまちづくり	主管課	財政課	主管課長名	青木 康博
6-5	施策名	健全な財政運営の推進	関係課	企画課、総務課、税務課、収税課、会計課、ヤマザクラ課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
	市の財政	①一般会計歳入決算額(見込値は予算額)		百万	見込値	21,430	18,950	17,926	16,904
実績値					20,201	19,984	18,734	25,511	23,039
②一般会計歳出決算額(見込値は予算額)			百万	見込値	21,430	18,950	17,926	16,904	18,220
				実績値	18,981	18,533	17,072	23,083	20,882
				見込値					
				実績値					
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
財政運営が安定し、財政状況が市民に分かりやすく伝えられている。		①市民一人あたりの貯金の額(基金残高÷人口)	千円	目標値	150	150	150	150	150
				実績値	150	178	191	187	241
		②市民一人あたりの借入金残高(市債残高÷人口)	千円	目標値	340	340	340	340	340
	実績値			413	473	486	500	521	
	③財政力指数	-	目標値	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	
			実績値	0.49	0.49	0.49	0.49	0.48	
	④市税の収納率(現年度)	%	目標値	98.3	98.3	98.5	98.5	98.7	
			実績値	98.4	98.5	98.2	98.2	98.5	
	⑤ふるさと応援寄附金の額	千円	目標値	14,500	15,000	15,500	16,000	16,500	
			実績値	14,760	19,396	22,031	19,845	32,533	
成果指標設定の考え方	健全な財政運営ができるかどうかは、①市民一人当たりの貯金額、②市民一人当たりの借入金残高、③財政力指数、④市税の徴収率(現年度)、⑤ふるさと応援寄附金の額で見る。								
成果指標の把握方法と算定式等	①市民一人当たりの貯金の額(基金残高÷人口)、②市民一人当たりの借入金残高(市債残高÷人口)、③財政力指数、④市税の収納率(現年度)は、決算カードより求める。⑤ふるさと応援寄附金の額は決算書より求める。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人当たりの貯金の額は、令和2年度187千円から令和3年度241千円に増加した。現在予定されている複合施設や新庁舎などの大規模建設事業に対応するため、公共施設整備基金をはじめ、財政調整基金や減債基金など将来への備えとして20億円超の積み立てを行った。 市民一人当たりの借入金残高は、令和2年度500千円から令和3年度521千円と増加した。大規模事業の実施に伴う市債の発行額が増加したためである。 財政力指数は、令和2年度の0.49から令和3年度は0.48に若干下がった。 市税の収納率(現年度)は、令和2年度の98.2%から令和3年度は98.5%に向上した。 ふるさと応援寄附金の額は、令和2年度19,845千円から32,533千円に増加した。要因としては、返礼品及び掲載サイトを増やしたことが要因と考えられる。 <p>市債の増加は、合併特例債事業の進捗によりやむを得ないが、収納率の向上、ふるさと応援寄附金の額の上昇、普通交付税の増加などによる基金への増資など財政運営上の歳入確保という面では一定の成果が見られたため「どちらかといえば向上」と判断した。</p>		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人当たりの貯金の額は、目標値を91千円上回ることができた。 市民一人当たりの借入金残高は、181千円上回ってしまった。 財政力指数は、0.07ポイント下回った。 市税の収納率は、0.2ポイント下回った。 ふるさと応援寄附金の額は、12,688千円上回った。 		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
<p>施策の目指す姿の実現に向けた取り組みの中で、以下の事業が大きく貢献したと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画的な財政運営の推進には、コロナ禍の中、収納管理事務、滞納管理事務が大きく貢献した。 返礼品や掲載サイトを増やしたことにより寄附額が増加し、目標値の2倍の成果をあげたふるさと応援寄附金事業が大きく貢献した。 茨城租税債権管理機構に移管した事案の昨年度実績は、16件22,226千円の徴収実績があり増収に大きく貢献した。 	<p>今後も大きなプロジェクトが続いていく中で、健全な財政運営を行うためには、財政計画を作成しながら、予算編成を行う必要がある。</p> <p>市税の収納率については、今後も引き続き、その向上に向けた事業を実施していく。</p> <p>ふるさと応援寄附金の額の向上に向けて、更なる返礼品の開発をしていく必要がある。</p>